

進路だより Vol.2

栃木県立佐野松桜高等学校
進路指導部
平成 28 年 12 月 16 日

1 就職状況について

(1) 今年度の求人状況

下表 1 は、過去 5 年間の本校に対する求人の推移を表しています。平成 28 年度は 12 月 9 日現在のデータです。平成 20 年度から 24 年度まで求人数は減少してきましたが、25 年度から増加するようになってきました。今年度も、昨年度以上の求人をいただいております、減少のピークであった 24 年度の 2 倍以上になりました。地元・佐野市管内はもちろん、県内外の事業所からの求人が、ここ数年で大幅に増加しました。

職種別では、事務職や販売職の増加がみられました。製造職やサービス職(福祉関係)の求人増加が顕著であり、現在も募集が続いています。

	H24	H25	H26	H27	H28
佐野管内	55	70	86	99	109
栃木県内	84	94	112	143	191
県 外	81	114	129	152	211
合 計	220	278	327	394	511

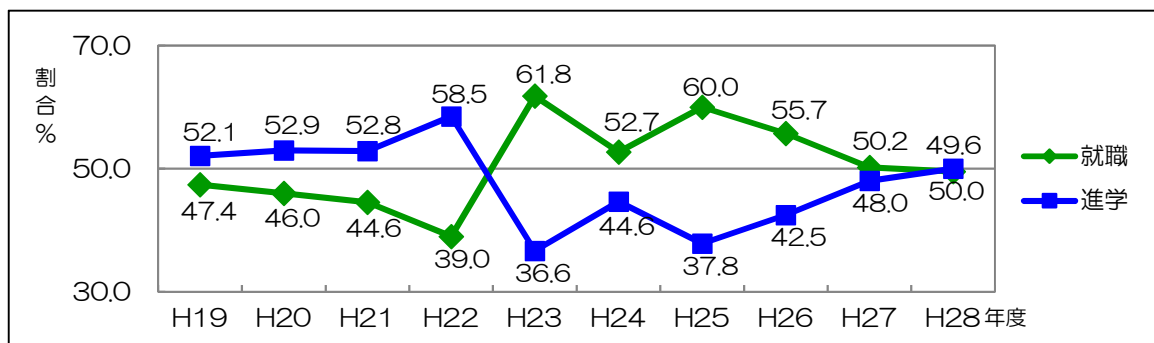
表 1 過去 5 年間の求人の推移

(2) 求職の状況

今年度は 3 年生 226 名の 49.6%にあたる、112 名が就職を希望しました(内、自己就職 4 名、公務員 3 名)。いずれの学科の生徒も、学校の専門教科で培ったことを活かせる職業を望む割合が非常に高く、その夢を叶えているようですが、求人が多くなったために、迷って会社を選べない生徒も何人かいました。

地域別では、地元からの求人も増えたため地元志向が一層強くなり、当初、佐野市および足利市内のごく近隣の事業所を希望した生徒が、90 名(80%)を超えました。このため、例年採用していただいている大手企業への希望者が無いというケースも何件かありました。就職先を決定するにあたり、自分の特性を知った上での選択が重要となりますが、大手企業にチャレンジするような考えも持ってほしいと思います。

表 2 進学者と就職者の割合の推移



(3) 就職内定状況

表 3 は、3 年生の就職内定状況(12 月 9 日現在)を表しています。()内の数字は、公務員や自己開拓・縁故による就職希望者数を表しています。学校長推薦で就職試験に臨んだ生徒 105 名全員が 12 月上旬に内定をいただくことができました。1 回目の試験で内定をいただけなかった生徒も、11 月中に全員内定しました。近年では最も早い全員内定、さらには、他校と比較しても非常に高い内定率となりました。参考までに、県内 9 月末の高校生の就職内定率は 64.8% (前年 52.9%、栃木労働局調べ)で、本校は 86.6%(前年 78.1%)でした。

	受験者数	内定者数	未決定者数	学校推薦内定率
男子	59 (7)	59 (7)	0 (0)	100.0 %
女子	53 (1)	53 (1)	0 (0)	100.0 %
合 計	112 (8)	112 (2)	0 (0)	100.0 %

表 3 3 年生の就職内定状況

2 進路に関するアンケート結果について

(1) 就職受験アンケートより

表4、表5は、平成21年度～27年度に卒業した3年生のうち、学校推薦で就職受験をした生徒717人を対象に実施したアンケート結果です。

3年間の欠席日数が少ない生徒は、早い段階で内定が出て、欠席の多い生徒は進路変更を余儀なくされる確率が高くなっていることがわかります。また、部活動を3年間続けた生徒は、早期内定の確率が高く、一度失敗をしても粘り強く就職活動を継続して遅くなくても内定をいただいています。

表4 欠席日数と
受験企業数の関係



	1社	2社	3社	4社	5社以上	内進路変更	進路変更率
0日	247	21	4	2	0	5	1.8
1～9日	319	32	11	2	0	5	1.4
10～19日	40	6	1	0	1	1	2.0
20～29日	10	3	0	0	0	1	7.1
30日以上	13	3	2	0	0	3	14.3

表5 部活動と内定月の
関係

	9月	10月	11月	12月	1月以降	進路変更	9～10月内定率
最後まで活動	296	120	17	3	2	9	66.2
途中で辞めた	52	26	7	3	1	2	57.1
やっていない	114	49	6	6	0	4	63.7

(2) 進路の悩みに関するアンケートより（1・2年生が実施）

「自分の能力や適性を知っている」生徒が少なく、「自分に合っているものがわからない」生徒が多いという結果が出ました。2年生では、「社会に出ていく能力があるか自信がない（社会に出て行くのが不安だ）」と答えた生徒が60.2%いました。1年次の調査50.0%より悪化したこととなります。同様に「希望する進路先に合格できるか不安」と答えた生徒も75.2%で、1年次の63.6%より悪くなっています。勉強や部活動に積極的に取り組み、いろいろな場面で自信を付けてもらいたいと思います。

進路相談については、「希望進路を家の人は知っている」の問いでは、2年生(81.0%)・1年生(75.2%)、「進路について家の人とよく話をする」では、2年生(54.9%)・1年生(53.5%)となりました。いずれも2年生になると、家族と話し合いをしている生徒が多くなるようです。

3 進路室から

(1) 進路の決定時期について

今年の3年生は動き出しが早く、受験先の決定も早かったように思えます。進学希望者でも学校決定が早い生徒が多くいましたが、一部ではなかなか決定できずに受験申込みが、締切り間際という事例もありました。夏休み中の職場見学では、申込み締切りが極端に早い企業が増えてきました。求人票を見てから企業を選び始めると、職場見学に間に合わなくなってしまいます。

2年生は、3年生になった時点で、「ここに就職（進学）したい」という気持ちを持つことが、1年生は、2年生になる前に「就職か進学か」の選択ができていることが望ましいと思われます。

(2) 医療看護系の学校への進学希望者へ

ここ数年、全国的に医療看護系の学校を希望する生徒が増え、試験の受験倍率も高くなっています。また、教育機関も、専門学校や短大から「大学」へ移行しつつあります。このため本校では、例年「医療看護模試」を年に2回、2年生と3年生の希望者を対象に実施しています。医療看護に少しでも興味がある生徒は、積極的に受験するようにしてください。

(3) 就職試験の傾向

高校生の就職試験では面接が最重視されていますが、最近では筆記試験の中で「作文」や「SPI検査」「YG検査」といった適性検査を重視する企業も増えてきました。また、大手企業の筆記試験は、内容が難しくなっている傾向にあるようです。普段から、基礎学力を高める努力をしましょう。

また、学校では作文対策指導も行っていますが、普段から「書くこと」や「文章読解」にも力を入れるようにしましょう。